

私たちを支える大切な税金

所沢市立所沢中学校

三年 井関 美波

ある日、私は社会の授業で税に関する話を聞きました。私は今まで、税について詳しく調べたことはなかったけれど、この授業で配られた冊子を読んで、少し興味が湧きました。また、普段の歴史の授業を振り返ってみると「年貢」という言葉を聞いたことがあります。税には歴史があるのか、ということも気になったので、今回調べてみることにしました。

まずは、身近にある税金についてです。私たち中学生や小学生、高校生などの生徒一人一人に多くの税金が教育費として使われています。最近はICT機器を利用した授業も多くなり、便利で過ごしやすい学校生活を送っています。また、かぜを引いたり、けがをすると病院に行つて薬をもらいます。しかし、あの時診察を受け、処方された薬の代金が無料なことに気がつきました。このように、毎日学校へ行つて学ぶことができるのは、あたり前ではないんだな、と改めて実感しました。

次に、税の歴史についてです。税のはじまりは、弥生時代だそうですね。こんなに昔から税が納められていたことに、私は驚きました。飛鳥・奈良時代には、班田収授の法により、農民に田を与える代わりに租・調・庸・雑徭などという税が課税され、安土桃山時代では農地の面積や土地の良し悪し、収穫高を調べて年貢をかけたそうです。このころの時代は米を年貢として納めて

いました。明治時代では地租改正を実施し、明治二十年には所得税が導入され、昭和時代では納税の義務が定められたそうです。そして現代では、平成元年に抜本改革が行われ、さらに、国民一人一人に十二ケタの番号のマイナンバーが割り振られました。

税金は、住民を守るため、便利で豊かな暮らしのため、健康で快適な生活のためなど、たくさん目的に沿って使われていることが分かりました。私たちを支えてくれている税金、納税者の方々に感謝を忘れずに生活したいです。私の知らない税やしくみなども、まだまだたくさんあると思うので、さらに調べて深めていきたいです。そして、大人になった私が税を納めて多くの人を支える準備を今から始めていけるといいな、と思います。